

10 在宅生活中の高次脳機能障害者・身体障害者の社会資源利用状況調査

－所沢市内の患者様の地域生活に向けて－

管理部医事管理課医療相談室 飯塚真理，所沢市保健センター 野崎久子

所沢しあわせの里 原田真哉，ところざわ障がい者相談支援センター 池田誠

所沢どんぐり 小林宏治，生活支援ルームさぼっと 松本弘，地域生活支援センターぽぷり 柳本愛子

【はじめに】当院では、患者様の退院及び外来リハビリ終了時に、在宅での活動継続を目的として様々なサービス利用を提案している。その際、障害者手帳(以下、手帳)を取得済みの方は障害者自立支援法による障害福祉サービスの利用が可能であるが、まだ手帳取得が難しい方もいる。これら手帳を持たない方でも利用できる機関として、所沢市内には保健センター主催のリハビリ教室や当事者のつどいがある。また、年齢等の要件を満たす方は介護保険サービスが利用可能である。

そこで、保健センター利用者及び在宅の高次脳機能障害者もしくは身体障害者で障害福祉サービス利用者について、サービス利用の実態を調査し、現状と課題を明らかにすることとした。

【方法】所沢市保健センター通所利用中の方34名及び市内にある5ヶ所の相談支援事業所利用中の高次脳機能障害者・身体障害者74名を対象とし、H24年10月に社会資源利用状況等についてアンケート調査を実施した。回答数は保健センター利用者22名、相談支援事業所利用者74名(そのうち保健センターとの重複利用者5名)、実回答者数計91名分について集計、分析した。

【結果】保健センター利用者22名中、医療機関退院から1年以内に利用を開始している方18名、そのうち6ヶ月以内に利用を開始している方13名であった。さらに22名中、介護保険認定済は11名、そのうち保健センター通所日以外に介護保険の通所リハを利用している方7名、加えて訪問リハを併用している方3名であった。手帳の所持者数は身障手帳15名、精神手帳4名、介護保険といずれかの手帳所持者は8名、いずれも未取得1名であった。現在のサービス利用状況の満足度は、とても満足4名、満足9名、どちらともいえない4名、やや不満、不満0名、無回答5名であった。意見として、「交流の場として楽しく通所している」「もっとリハビリを受けたい」「リハビリ教室は期限があるので、その後国リハでリハビリを行ってほしい」等があった。なお、保健センター職員からは、どのサービスにも繋がっていない方の把握及び支援が難しいとの問題点が挙げられている。

相談支援事業所利用者中最も多く利用している通所サービスは、生活介護43名であった。通所先は、身障手帳のみ所持者49名と身障手帳と療育手帳の所持者23名では利用事業所が異なり、療育手帳所持者は身障手帳のみ所持者より利用回数が多かった。身障手帳のみ所持者46名中、通所サービスを全く利用しない方20名、通所2回/週以下は15名で、その方達は訪問介護等居宅でのサービスを利用していた。精神手帳のみ所持者は2名で、就労継続支援に通所している。74名の手帳の等級と区分の関係については、連動していないことがわかった。

【考察と今後の課題】医療機関退院から保健センター利用開始までの期間が6ヶ月以内の方が半数であることから、当院でも早期に情報提供を行えるようにしたい。また、相談支援事業所利用中の身障手帳のみ所持者中20名は在宅サービスのみ利用のため、通所に拘ることなく地域で利用可能なサービスを確認しながら、本人のニーズに沿った支援を行うことが必要であると考える。